ICTを活用した街づくりセミナー

新居浜市ICT街づくり推進事業

IDを利活用したバリアフリー観光・移動、避難救護システム

愛媛県新居浜市
慶應義塾大学
株式会社ハートネットワーク

新居浜市花：つつじ

平成26年5月29日

1. 新居浜市の概要

愛媛県の東部

人　口　　124，027人

世帯数　57，090世帯

＜平成26年2月末現在＞

高齢化率　27．9%

（愛媛県　27．64%）

＜平成25年3月末現在＞

JR新居浜駅周辺

別子銅山貯鉱庫

東平「東洋のマチュピチュ」

新居浜太鼓祭り

2. 地域が抱える課題とその解決に向けた街づくりの戦略

離島、山間地を含む新居浜市

新居浜市が抱える課題

○「少子高齢化」
県平均を上回る高齢化率

○「災害多発地域」
過去に大水害を経験

○「都市・生活機能の分散」
離島、山間地を含む

「第五次新居浜市長期総合計画」の下、
街ぐるみで課題に取り組む体制を構築

ICTの利活用による解決

3. ICTバリアフリーシステムの概要

平　時

バリアフリー観光・移動システム

障害者・高齢者に配慮した
観光・移動サービスを街全体で提供

バリアフリー健康管理システム

病院が未設置の離島、山間地における
高齢者・障害者の健康管理サービスを提供

観光都市・新居浜市

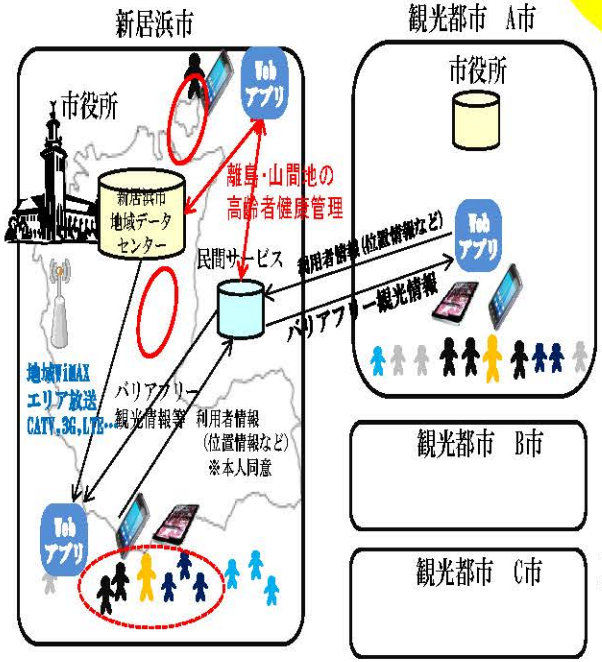
少子高齢化・災害多発地域
都市機能、生活機能が分散された都市構造
（離島・大島、別子山山間地等が存在する複雑な地形構造）

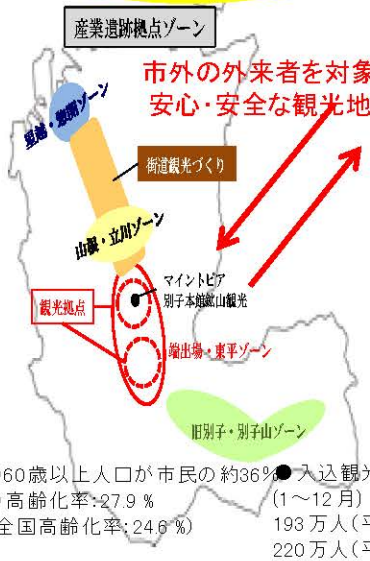
**平時と緊急時・災害時の別なく
サービスが連続する
ICTバリアフリーシステムを構築し、
高齢者を含むすべての人々に
安全で安心できる街をつくる**

緊急時・災害時

バリアフリー避難・救護システム

市内の高齢者・障害者及び外来者へ
ICTを利活用して、地域コミュニティが一体となって
街ぐるみで救護体制を提供

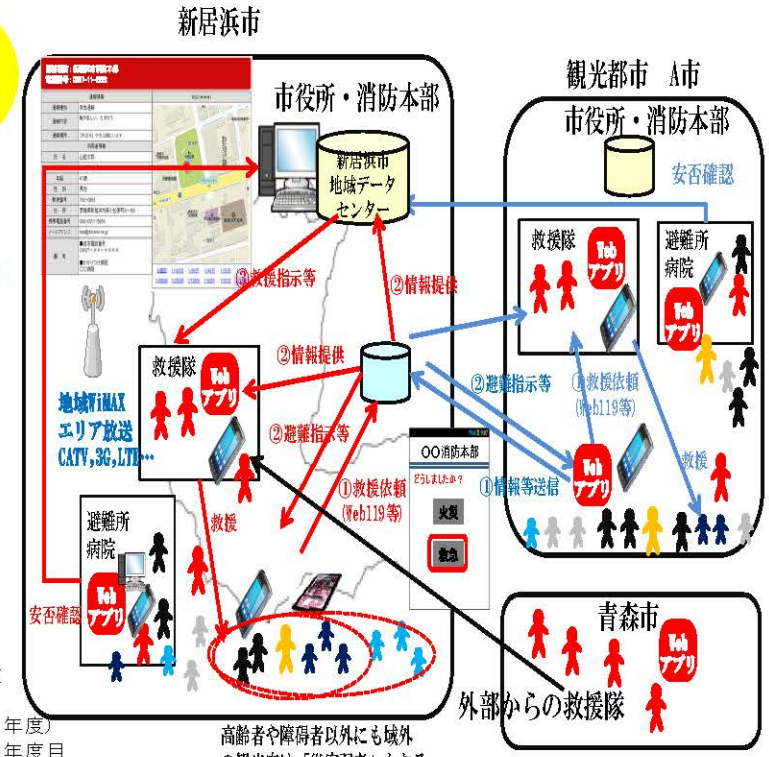




市外の外来者を対象に！
安心・安全な観光地に！

●60歳以上人口が市民の約36％
● 高齢化率：27.9％
（全国高齢化率：24.6％）

● 入込観光客数
（1～12月）
193万人（平成21年度）
220万人（平成32年度目標）



高齢者や障害者以外にも域外の観光客は「災害弱者」となる

新居浜市民 健常者　観光客（市外） 健常者　介助者　新居浜市民 障害者・高齢者　観光客（市外） 障害者・高齢者　救援隊（消防本部、民生員等）

安心して暮らせるまち「新居浜」を目指して

健康

■バリアフリー健康管理システム

離島、山間部では病院が設置されていないなど都市機能、生活機能の分散する土地柄であるため、健康管理分野においてICTを有効に活用し、高齢者・障害者も含め住民が安心して暮らせる街づくりを目指します。 ※協力：新居浜市、新居浜市社会福祉協議会、社会福祉法人「すいよう会」

■実証実験 ①

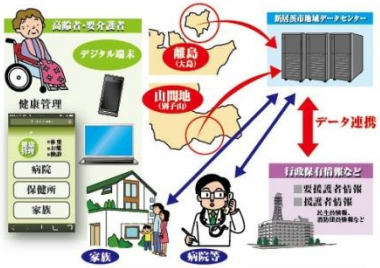
高齢者の健康管理（別子山地区）

各人の健康状態を健康測定データを確認しながらチェック、対策等を協議していただいています。

参加者：別子山分室、見守り推進員、新居浜市、保険センター…

高齢者登録（健康状態の把握） 利用 → 新居浜市 社会福祉協議会 ケアネットワーク会議（高齢者健康検討会議）

データ保存 → データベースサーバー ← アクセス確認 ← 家族 / 援護者 / 社会福祉協議会



■実証実験 ②

高齢者の健康管理（大島地区）

※大島地区の高齢者を対象に、ICTを活用した健康管理システムを構築し、利用していただいています。

デイサービス 高齢者登録（健康状態の把握） 利用 → 特別養護老人ホーム アソカ園「えびすや」

データ保存 → データベースサーバー ← アクセス確認 ← 家族 / 援護者 / 社会福祉法人すいよう会

■健康管理システム

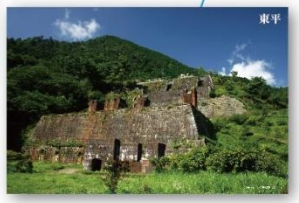
観光

■バリアフリー観光・移動システム

障害者や高齢者、市外の観光客を対象に、スマートフォンの持ち歩きを想定したバリアフリー観光・移動Webアプリを開発し、位置情報など利用者情報と地域情報、バリアフリー観光情報などのデータと連携することにより、高齢者や介護者にも優しいサービスが提供できるシステム及び体制を構築しました。

高齢者・要介護者・市外からの観光客

位置情報に基づいたバリアフリー観光情報や地域情報を提供



バリアフリー観光情報

■観光・移動情報

GPSで現在地を取得し、付近の観光情報を表示。目的地の検索も可能。

選択した施設等の詳細な情報（写真等）を表示します。

常時GPSを稼働させ、経路を表示します。※音声案内はありません。

■バリアフリー情報

防災

■バリアフリー避難・救護システム

緊急時・災害時には、高齢者などがスマートフォン等のモバイル端末を通し、ICTインフラに接続し、救援依頼が通知されるシステム及び体制を構築しました。

また、位置情報に基づいた最適な避難所への誘導システムを構築しました。

■災害情報

■避難所情報

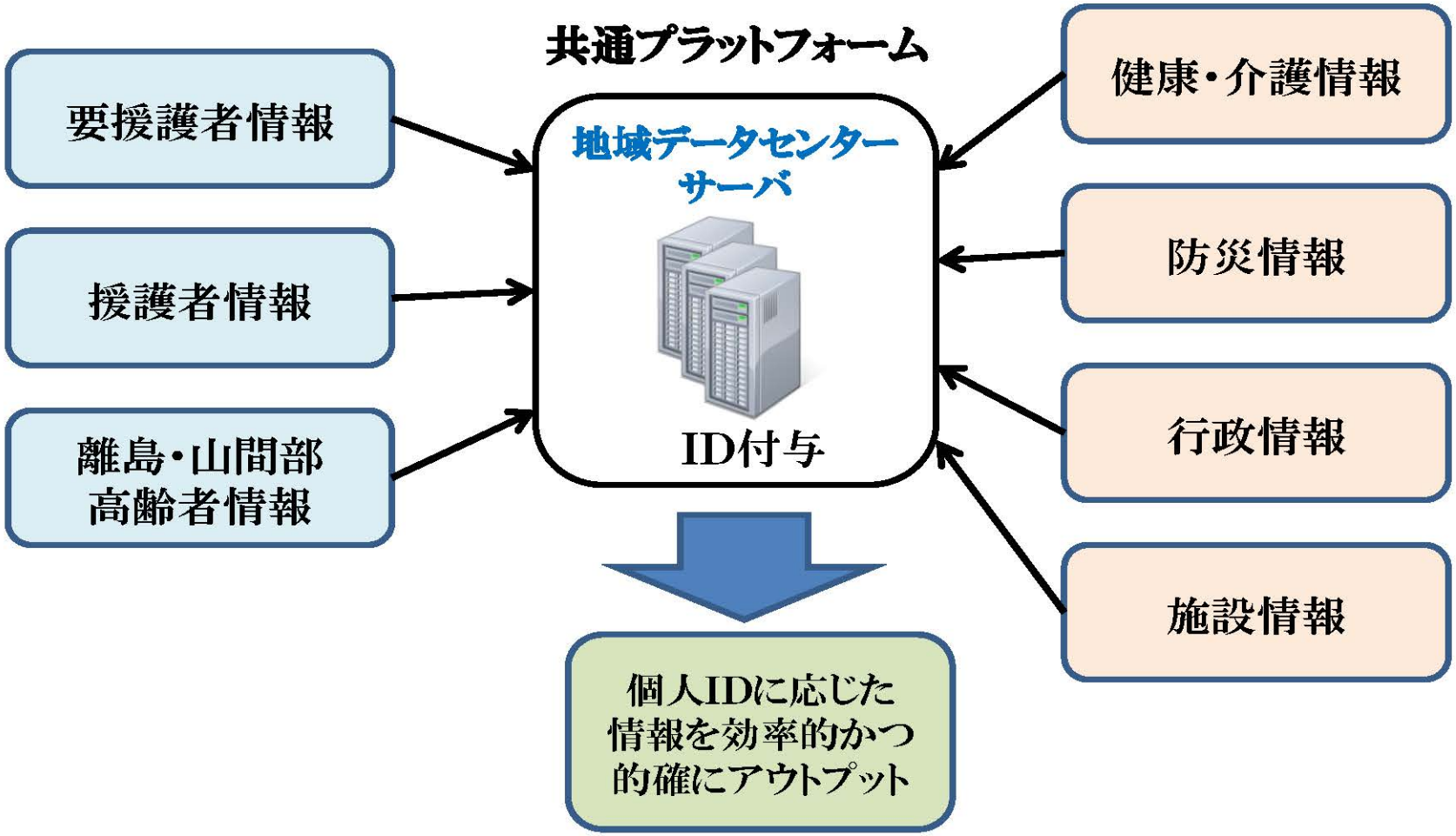
選択した避難所の詳細な情報を表示します。

常時GPSを稼働させ、経路を表示します。※音声案内はありません。

■安否確認システム

4. 共通IDシステム

利用者、管理者、自治体保有情報等、データ連携するための共通プラットフォームをデータセンターサーバに構築し、各個人IDに最適な情報を的確にアウトプットするシステムを構築。また、施設情報や観光情報など平時でも利用可能なデータも連携しています。



IDの振り方

「バリアフリー健康管理システム」、「バリアフリー観光・移動システム」、「バリアフリー避難・救護システム」の全てのシステムで共通のIDです。

利用者ID（11桁）

0001	00001	01
■グループ番号 どのグループで登録したかを示す番号です。	■基本番号 グループ内で重複しないように連番で登録されます。	■ランダム番号 セキュリティ保護のため、登録の際にランダムで決定します。

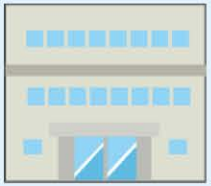
※グループとは
例）・別子山自治会　0001
　　・〇〇介護センター　0002
　　・△△鉄工所　0003

例）・山田　太郎　00001
　　・佐藤　花子　00002

ID配布の流れ

例

ハートネットワーク



管理者ID
を発行

1. ○○自治会の情報を入力し
管理者IDを発行・印刷します。

○○自治会

2. 受け取ったID・PASSで
管理画面にログインします。

3. 利用者の情報を入力し
利用者IDを発行・印刷します。

利用者ID
を発行

利用者A　利用者B　利用者C

4. 受け取ったID・PASSでログインします。

利用開始

ID連携

利用者画面（マイページ）

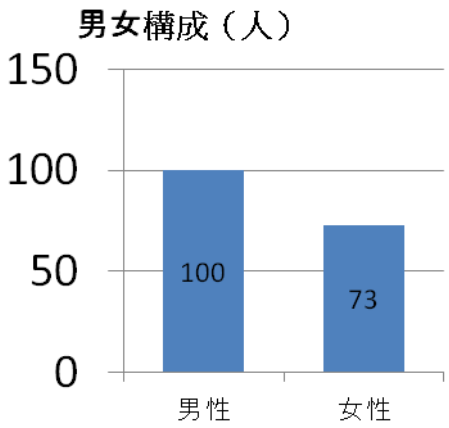
管理者画面

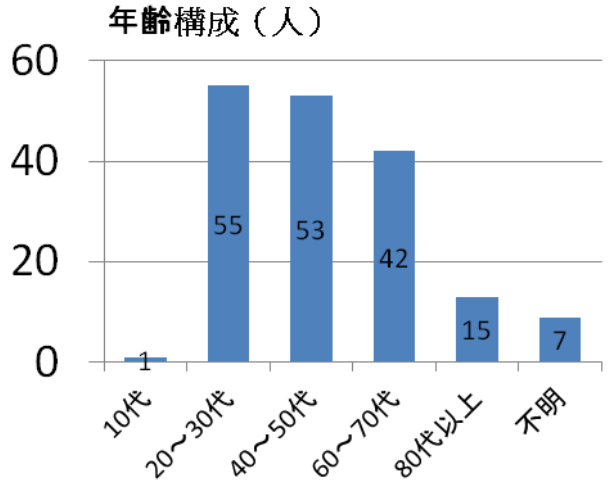
個人登録者数：173名
平成26年1月31日現在

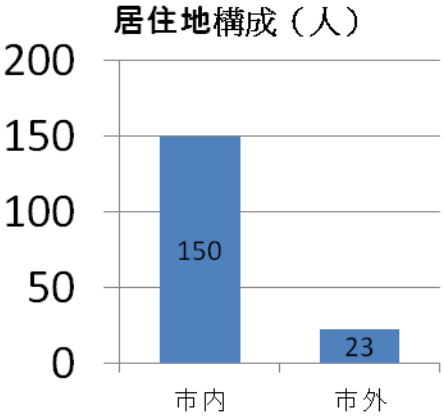
団体（管理者）登録数：7団体
平成26年1月31日現在

ID登録者の詳細

ID登録者（173人）の構成





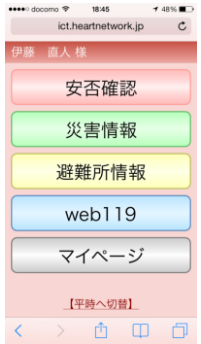


登録管理団体（7団体）の構成

	行政	福祉法人	NPO	企業
管理登録者	1	3	1	2

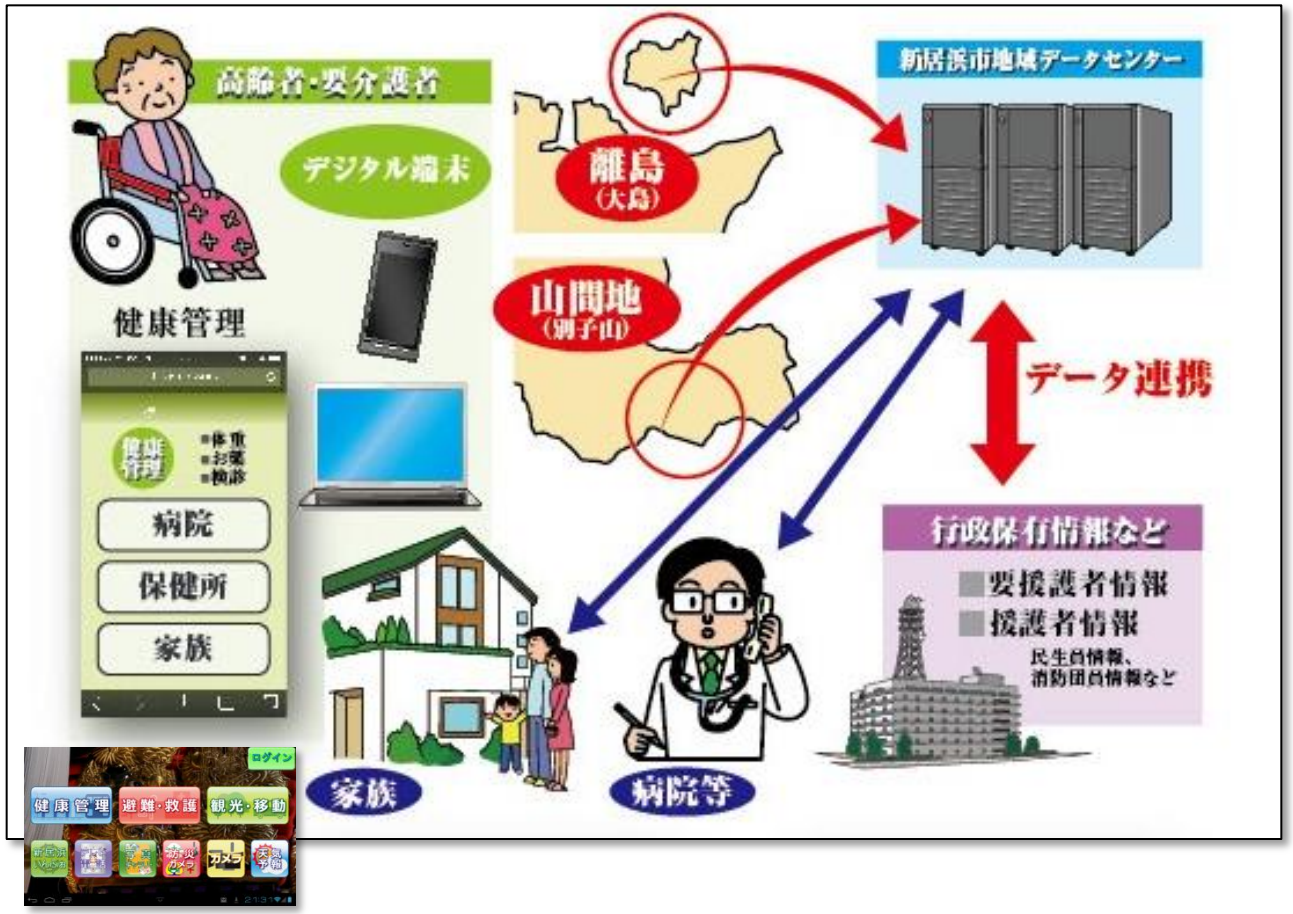
各アプリの利用権限

	健康管理	安否確認	防災情報	観光移動
ID登録者	○	○	○	○
未登録者	×	×	○	○

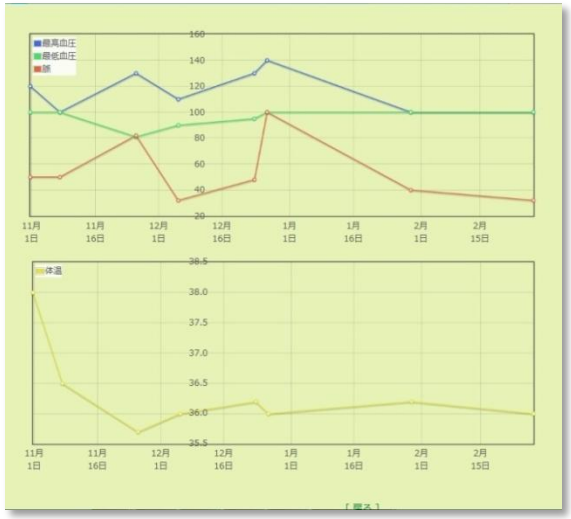


5. バリアフリー健康管理システム

離島、山間部では**病院が設置されていない**など都市機能、生活機能の分散する土地柄であるため、在宅介護や医療においてICTを有効に活用し、高齢者・障害者も含め住民が安心して暮らせる街づくりを目指します。



個人データ履歴表示



バリアフリー健康管理システム

別子山地区における健康管理実証事業

参加者：計33名
新居浜市社会福祉協議会職員4名、新居浜市保健センター保健師3名、
新居浜市4名、見守り推進員（民生委員等）5名、別子山高齢者17名

実施スケジュール

	11月	12月	1月	2月
デイサービス	☆14 ☆28	☆12 ☆26	☆9 ☆23	☆13 ☆23
ケアネットワーク会議	☆22	☆6	☆10	☆14

健康管理項目：全12項目

1. 血圧	2. 体温	3. 脈拍	4. 食欲	5. 水分摂取	6. 排便
7. 排尿	8. 体の痛み	9. 服薬	10. 定期健診	11. 睡眠	12.健康相談

別子山地区での実証実験①

別子山地区の高齢者を対象に、ICTを活用した健康管理システムを構築し、実証実験を実施

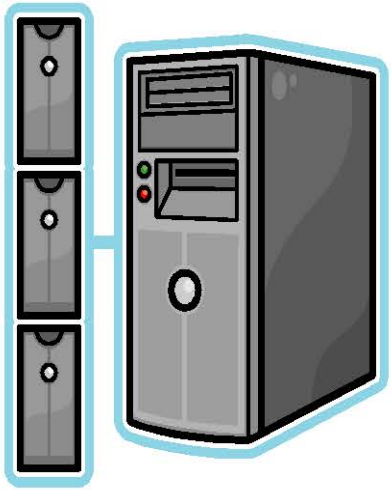
福祉センター
別子山分室

利用

●デイサービス（第2・4木曜日）
●診療所（毎週木曜日）

高齢者
登録：17名

データ
保存



データベースサーバ

アクセス
確認

家族

援護者

社会福祉
協議会

新居浜市
保健センター

保健師さんによる健康測定

健康測定結果をシステムへ入力

別子山地区での実証実験②

ICTを活用して高齢者の健康状態を関係者で定期的に協議

■ケアネットワーク会議（高齢者健康検討会議）
参加者：別子山分室、見守り推進員、新居浜市、保健センター
各人の健康状態を健康測定データ（履歴）を確認しながら対策等を協議

タブレットを利用した健康確認

遠隔（テレビ会議）による
ケアネットワーク会議

効果

・高齢者の健康情報のデータベース化により、遠隔でも適切なアドバイスが可能になる。
・データベース化により、専門員同士での協議が可能となる。

課題

・高齢者自身ではモバイル端末の操作が困難。継続した利用講習が必要。
・山間地のため、モバイルインフラが整備されておらず、一部の自宅からの操作が不能であった。モバイルインフラの整備が必要。

バリアフリー健康管理システム　成果

別子山地区における健康管理実証事業の評価

＜新居浜市社会福祉協議会の評価＞

◆距離という物理的なバリアを超えての可能性

地域を基盤とした対人援助における重要なキーワードとして、**「アウトリーチ」**と**「多職種連携」**が考えられる。別子山のような僻地では、ICTを活用したテレビ会議システムと健康管理システムによる高齢者の蓄積データを活用することにより、距離という物理的なバリアを超えての「アウトリーチ」と「多職種連携」の可能性を感じた。

＜新居浜市保健センター（保健師）の評価＞

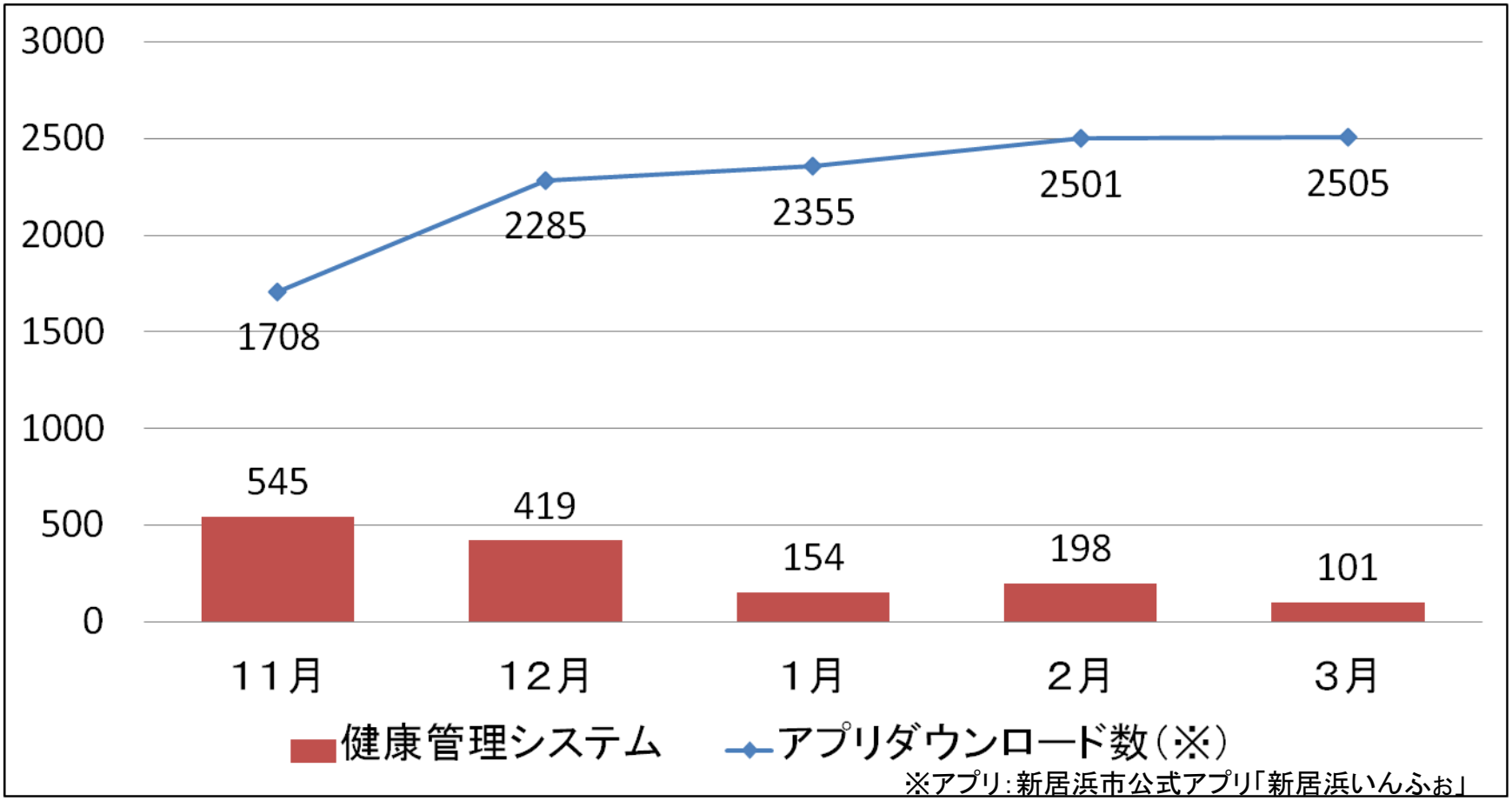
◆遠隔で適切なアドバイス

高齢者の健康状態を地域ネットワーク内にデータベース化することにより、場所、時間を問わず健康状態を確認することができ、遠隔でも適切なアドバイスが行うことが出来る。

僻地において、高齢者のみならず住民の健康管理は、地理的条件が大きなバリアとなる。実証事業参加者の意見のとおり、このICTシステムを利活用し、事業者、行政、住民が一体となり取り組めば僻地での医療において一定の効果が見込まれる。
また、本実証事業の目的は、僻地での高齢者健康管理方法を検証することであったが、IDによる個人管理システムと福祉団体等の管理者がうまく連携できれば、高齢者自らがICT機器を操作しなくとも健康管理システムとして機能することが実証された。

バリアフリー健康管理システム　成果

システムアクセス数の推移

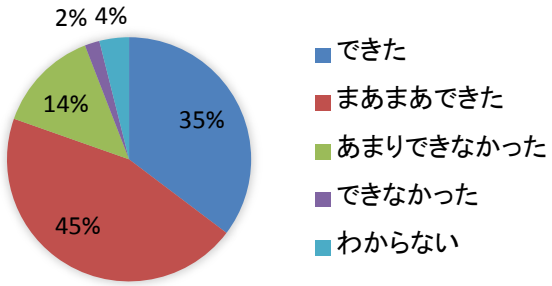


・健康管理システムは、ID登録者のみが利用できるため、実証実験地区での利用が主である。
・11,12月のアクセス数が多いのは、システム完成直後のため、頻繁に住民説明会を開催したため。

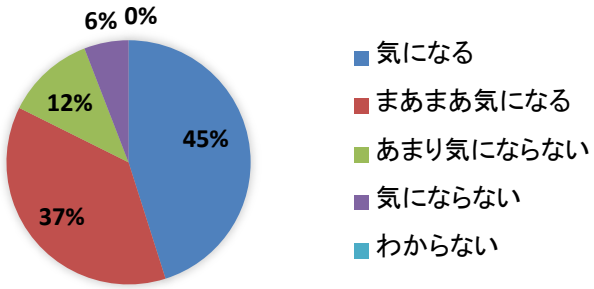
バリアフリー健康管理システム　成果

ID登録利用者の評価　　回答者数51名

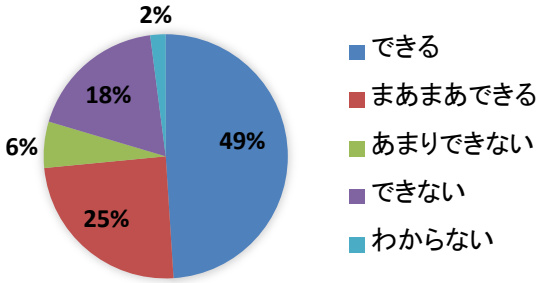
健康管理システムについて理解できたか？



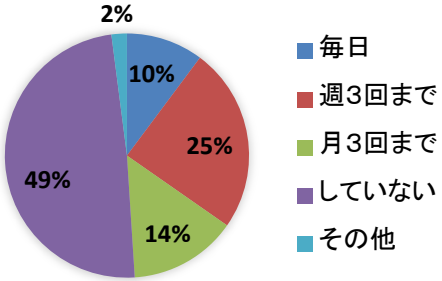
自分の健康状態は気になるか？



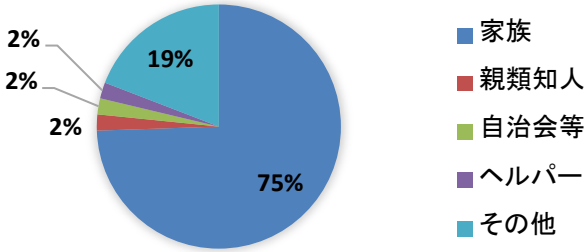
自分で端末を操作することができたか？



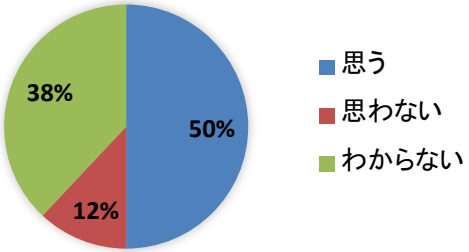
健康チェックの頻度は？



誰に健康状態を管理してもらいたいか？



継続して使いたいと思うか？



その他

・健康状態を蓄積していくことは、その人の状態が上向きか下向きかなど良くわかるのでいい。
・健康状態を家族に管理してもらいたい。
・健康管理項目を増やせば全市民で利用できるようになる。
・健康管理は今、一番興味のあること。役立つ情報も教えてもらいたい。
・画面操作がしづらい。
・健康測定をセンサーなどの機器で自動化して欲しい。

バリアフリー健康管理システム　課題

◆他職種連携の確立

僻地での高齢者医療体制を確立するには、医師、看護師等専門員の協力が必要。

（社会福祉協議会）

◆僻地におけるインフラの整備

モバイル回線が全域で利用出来ない。Wi-Fi等地域回線の整備が必要。

（大島、別子山の利用者、管理者）

◆高齢者のモバイル端末利用

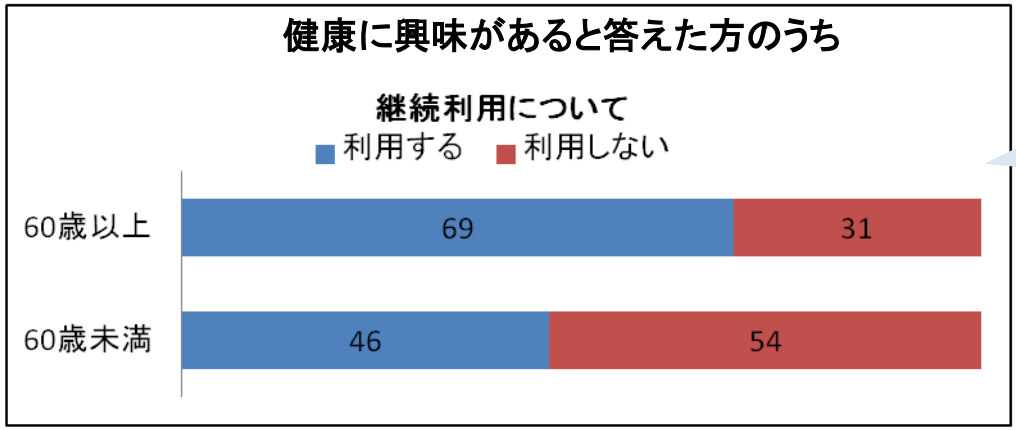
タブレット、スマートフォンに不慣れなため、利用が進まない。
継続して利用に関する講習が必要。

（利用者、社会福祉協議会、福祉団体）

◆健常者向けのメニュー開発

健常者も健康には興味がある。高齢者が自ら利用するには家族と共に利用すれば効果がある。

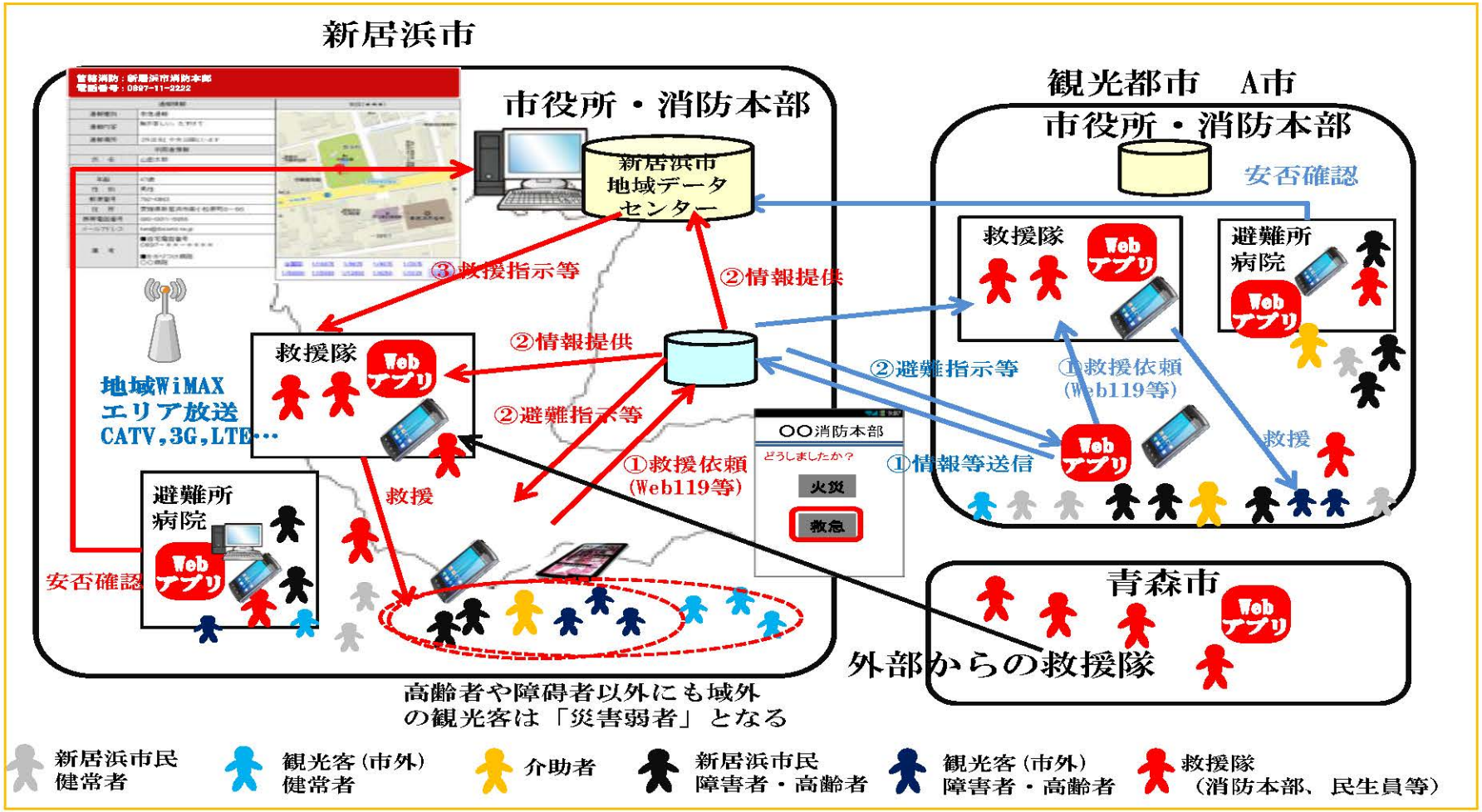
（利用者）



全ての年齢層で健康に興味を持っているが、若年層ではシステムの利用率が低くなっている。全市民に利用を広げるにはメニューの拡大が必要。

6. バリアフリー避難・救護システム

緊急時・災害時には、高齢者などがスマートフォンなどのモバイル端末を通し、ICTインフラに接続し、救援依頼が通知されるシステム及び体制を構築しました。
また、位置情報に基づいた最適な避難所への誘導システムを構築しています。

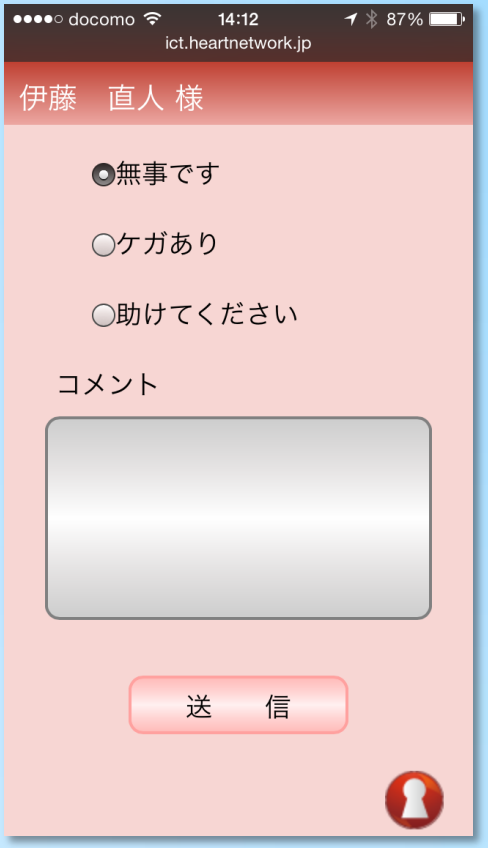


①安否確認システム

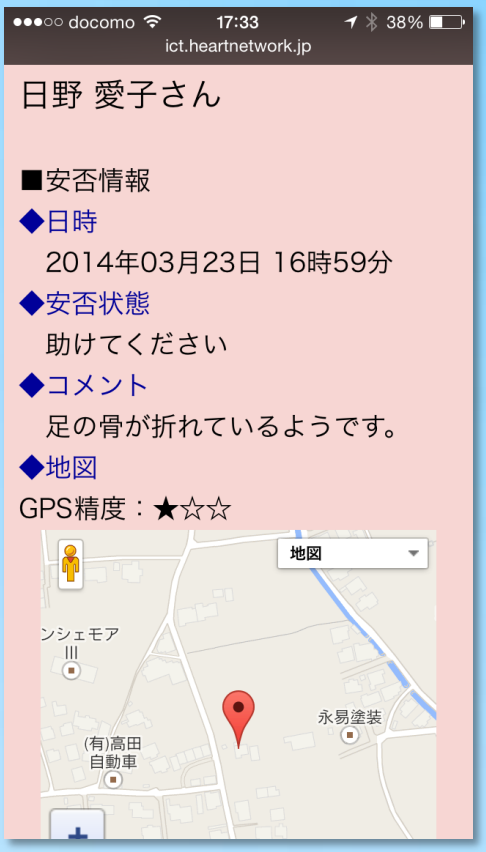
緊急時・災害時には、高齢者などがスマートフォンなどのモバイル端末を通し、ICTインフラに接続し、救援依頼が通知されるます。

メニュー

救援依頼



安否通知



安否確認実証実験

新居浜市社会福祉協議会職員に対し、大規模災害が発生したと仮定し緊急事態発生のメールを配信し、安否確認システムにより、安否の確認を行った。
職員には、実施日を知らせず、2ヶ月間で2回実施することのみ通知していた。

参加者：管理者1名、職員16名
〇第1回目
平成26年1月29日　10時に送信
安否返信状況　安否状況確認率：50%
・3分後・・・2名
・20分後・・・1名
・30分後・・・1名
・1時間30分後・・・1名
・6時間後・・・1名
・翌日・・・2名
・返信無し・・・8名

安否確認一覧

安否確認

安否詳細　（無事です）

一覧に戻る

9件見つかりました

受信日時	氏名	所属	結果	コメント	詳細
2014年03月22日 14時12分	伊藤　直人	ハートネットワーク	無事です		表示
2014年03月14日 02時34分	河野　義知	ハートネットワーク	無事です		表示
2014年02月28日 13時20分	syakyo　187	新居浜市社会福祉協議会	無事です		表示
2014年02月28日 12時27分	syakyo　1072	新居浜市社会福祉協議会	無事です		表示
2014年02月28日 12時11分	syakyo　189	新居浜市社会福祉協議会	無事です		表示
2014年02月28日 12時07分	syakyo　408	新居浜市社会福祉協議会	無事です	確認しました。	表示
2014年02月28日 11時38分	syakyo　16	新居浜市社会福祉協議会	無事です	仕事中はスマホを持ち歩くわ...	表示
2014年02月28日 11時09分	syakyo　20	新居浜市社会福祉協議会	無事です	受信しました。	表示
2014年02月28日 11時08分	syakyo　419	新居浜市社会福祉協議会	無事です		表示

効果

・実証実験により課題を反映したシステム利用マニュアルが作成できた。
・自主防災組織（自治会）での利用が有効であるとの評価を得た。

課題

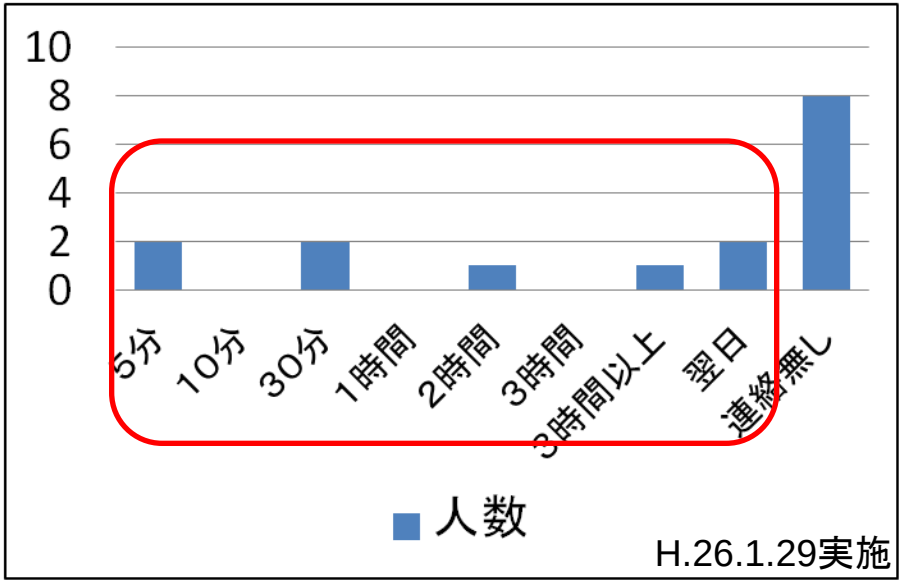
・安否を促す通知を緊急時に管理者が送信できるか不安。（自動化が必要）
・救援が必要な場合の救護体制の確立が必要。
・管理者側からの確認通知機能がないため、利用者が通知されたか不安である。

バリアフリー避難救護システム　成果

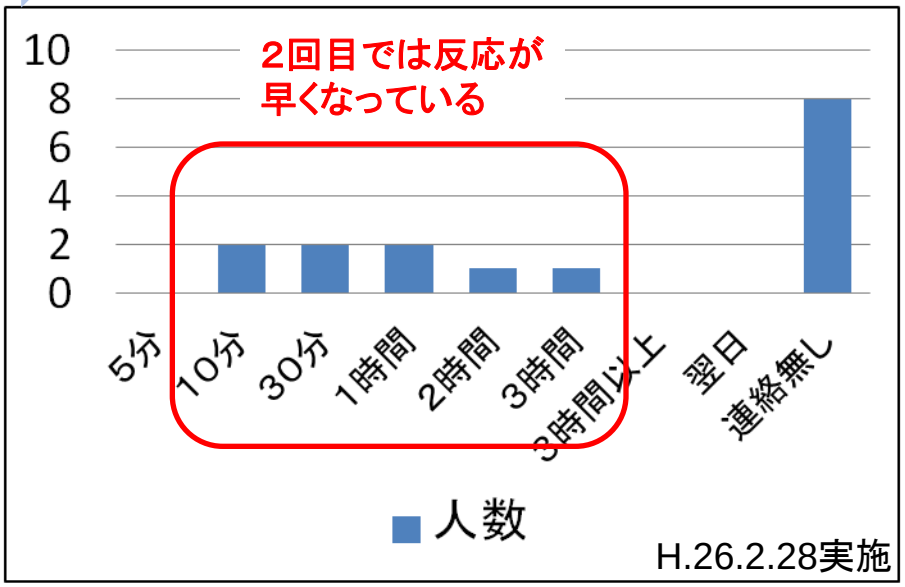
◆安否確認システム実証実験

新居浜市社会福祉協議会職員に対し、大規模災害が発生したと仮定し緊急事態発生のメールを配信し、安否確認システムにより、安否の確認を行った。職員には、実施日を知らせず、2ヶ月の間に2回実施することのみ通知していた。
参加者：管理者1名、職員16名

安否確認返信状況結果（1回目）



安否確認返信状況結果（2回目）



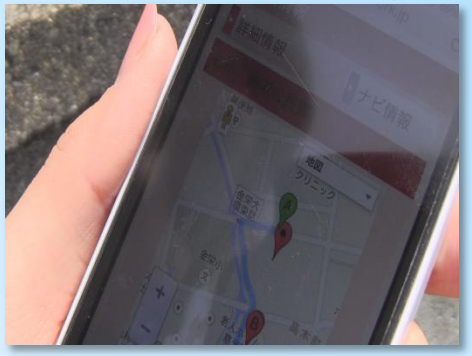
2回目の実証実験では、連絡無しの職員を除けば3時間以内に通知しており、明らかに意識が変わっている。実験に参加した職員の意見を基に、システム利用のマニュアルを作成すれば、広く利用が見込まれる。

②避難所情報システム

このシステムでは、スマートフォンのGPS機能を利用すれば、位置情報に基づいた最適な避難所への誘導が可能です。また、災害時には、臨時で開設される避難所や最新情報を管理者が即時に更新することができ、住民への迅速で的確な情報提供が柔軟に行えます。

避難所情報の登録・発信がいつでもどこからでも可能

避難所をスマホで確認



避難所一覧

経路表示

バリアフリー避難救護システム　成果

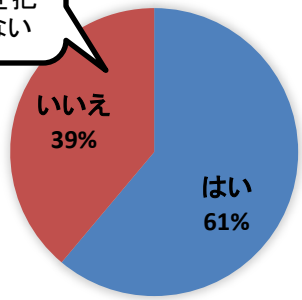
◆避難所に関するヒアリング調査

市民に対しイベント、説明会等でシステムを利用してもらいヒアリング調査を実施。
対象者数：216名

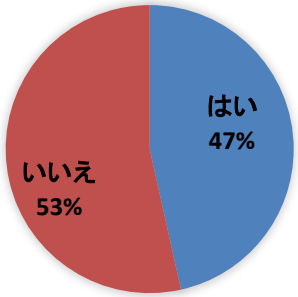
○最寄の避難所を知っているか？

市民の約40%が避難所を把握していない

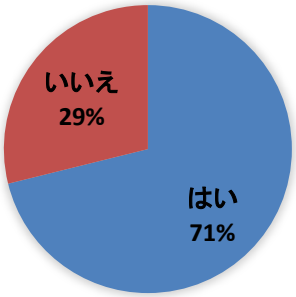
全体



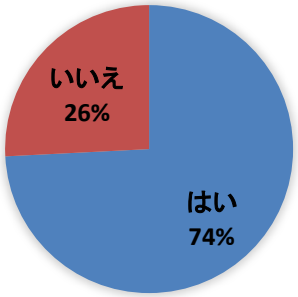
20代30代



40代50代

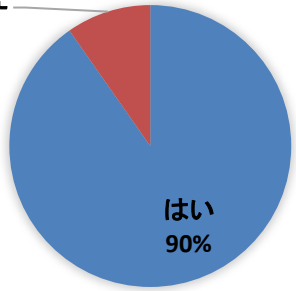


60代以上

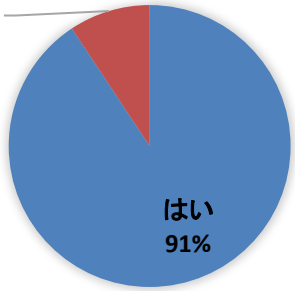


○システムを継続して利用するか？

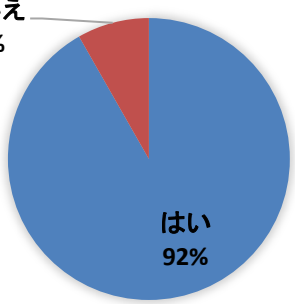
全体



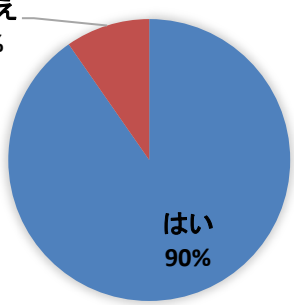
20代30代



40代50代



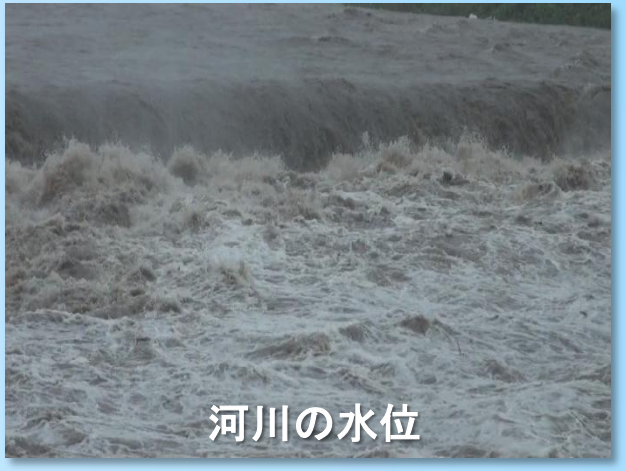
60代以上



上記の結果より、災害時の避難所への移動時間は、本システムを利用すれば確実に短縮されると推測される。また、本システムでは、臨時で配信される情報を場所、時間を選ばず迅速に提供できるため、災害時の情報提供手段として大きな効果が期待できる。

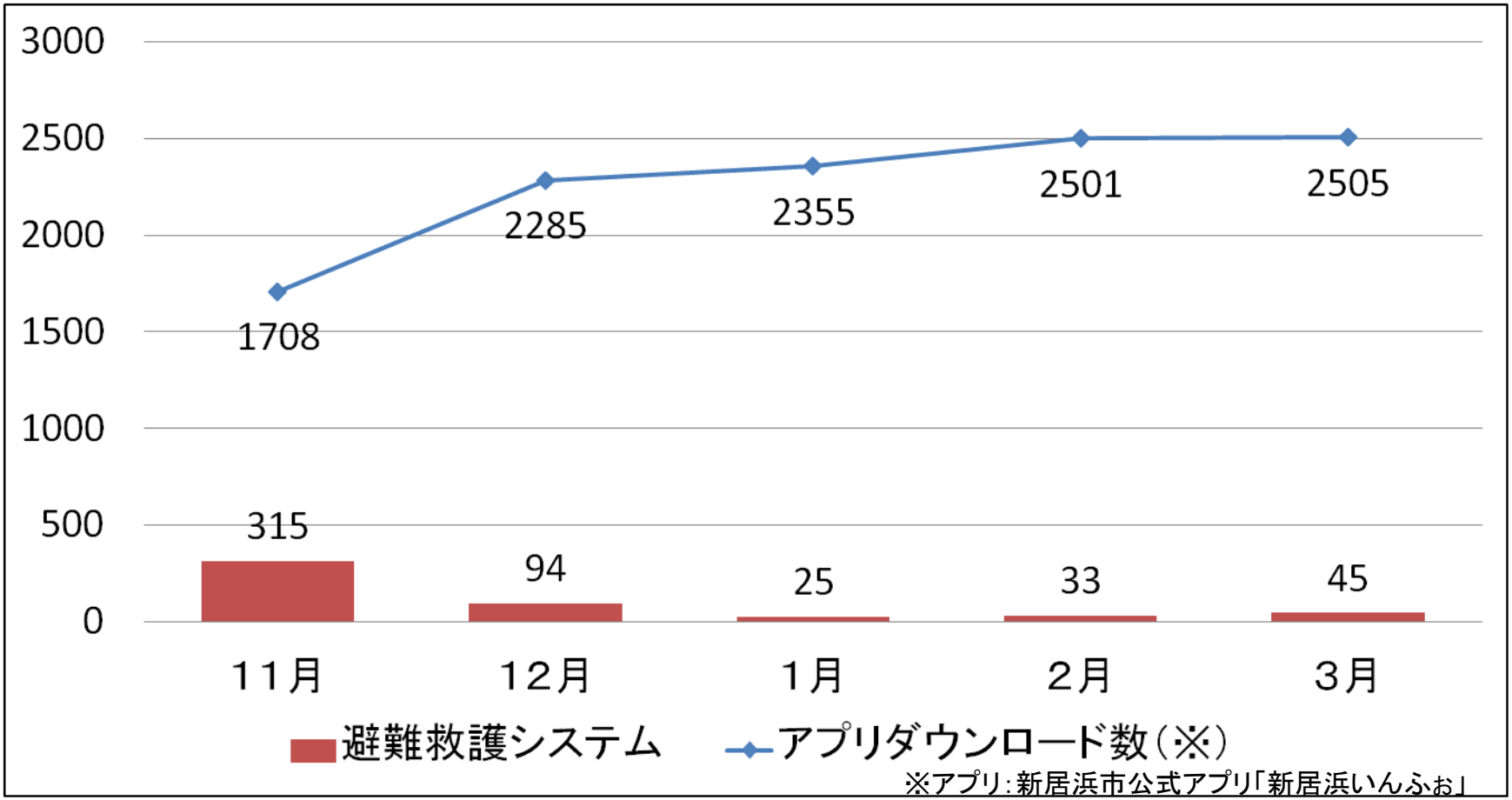
③災害情報の提供

気象警報、雨量情報、避難勧告情報はもちろんのこと、これまで市民には公開されなかった、河川のリアルタイム水位画像がモバイル端末で確認することが可能です。これにより、付近の住民自信で、状況を確認し、迅速な対応が可能となります。



バリアフリー避難救護システム　成果

システムアクセス数の推移

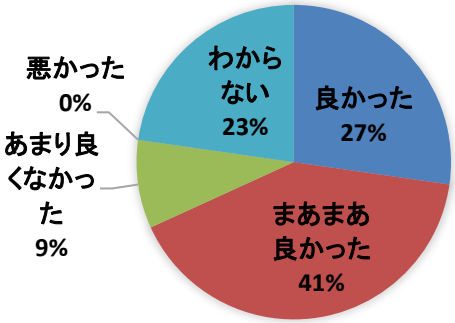


・災害等緊急事態が発生しなければ、通常は利用されることが無いと推測される。

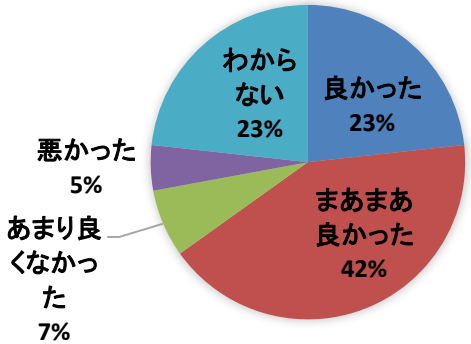
バリアフリー避難救護システム　成果

ID登録利用者の評価　回答者数51名

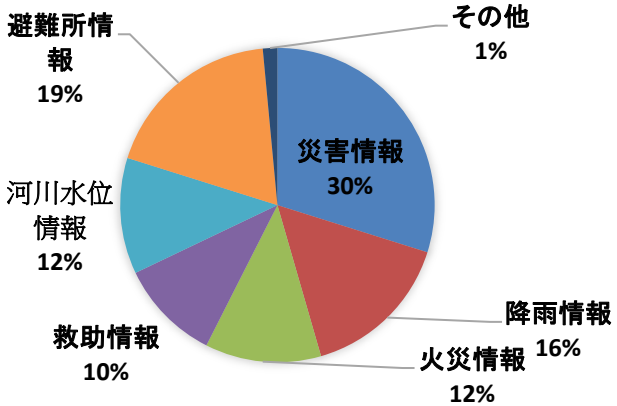
画面表示について



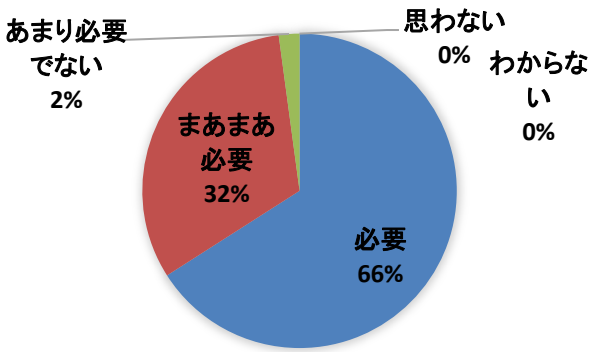
操作性について



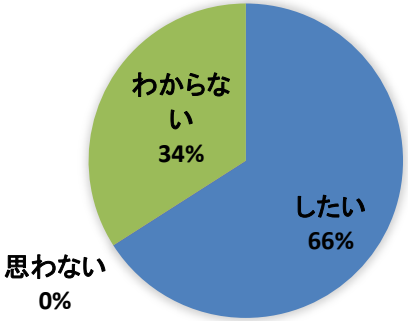
入手したい情報



安否確認システムの必要性



継続利用は？



その他意見

- これまで公開されなかった情報が公開されたことに意義がある。（河川水位画像）
- 避難勧告等自治体からの緊急連絡の前に、自身で避難の判断が可能になる。
- メールと違い画面選択だけで送信できるのは良い。（安否確認システム）

- 本システムの継続利用率は、他のアプリと比較し高くなっている。防災への関心は高いと推測される。
- 災害時においての利用については、アプリの操作性が求められる。操作性についての不満率を下げる必要がある。

バリアフリー避難救護システム　課題

◆救援体制の整備

救援依頼を通知したとき、誰が助けに来てくれるのか？救援要請は誰がするのか？

（社会福祉協議会）

◆情報の管理体制（更新、追加）

大災害が発生した場合は、当初に定められた避難所だけでは足らないことが予想できる。このシステムを利用して臨時避難所の開設や避難所の物資情報など最新情報が迅速に提供できれば大きなメリットを感じる。

（災害ボランティアネットワーク）

◆画面、操作性の向上

画面の有事・平時は自動で切り替わった方がいい。画面が見辛い。特に地図が見辛い、使い辛い。

（利用者）

◆安否確認システムの高度化、利用マニュアル化

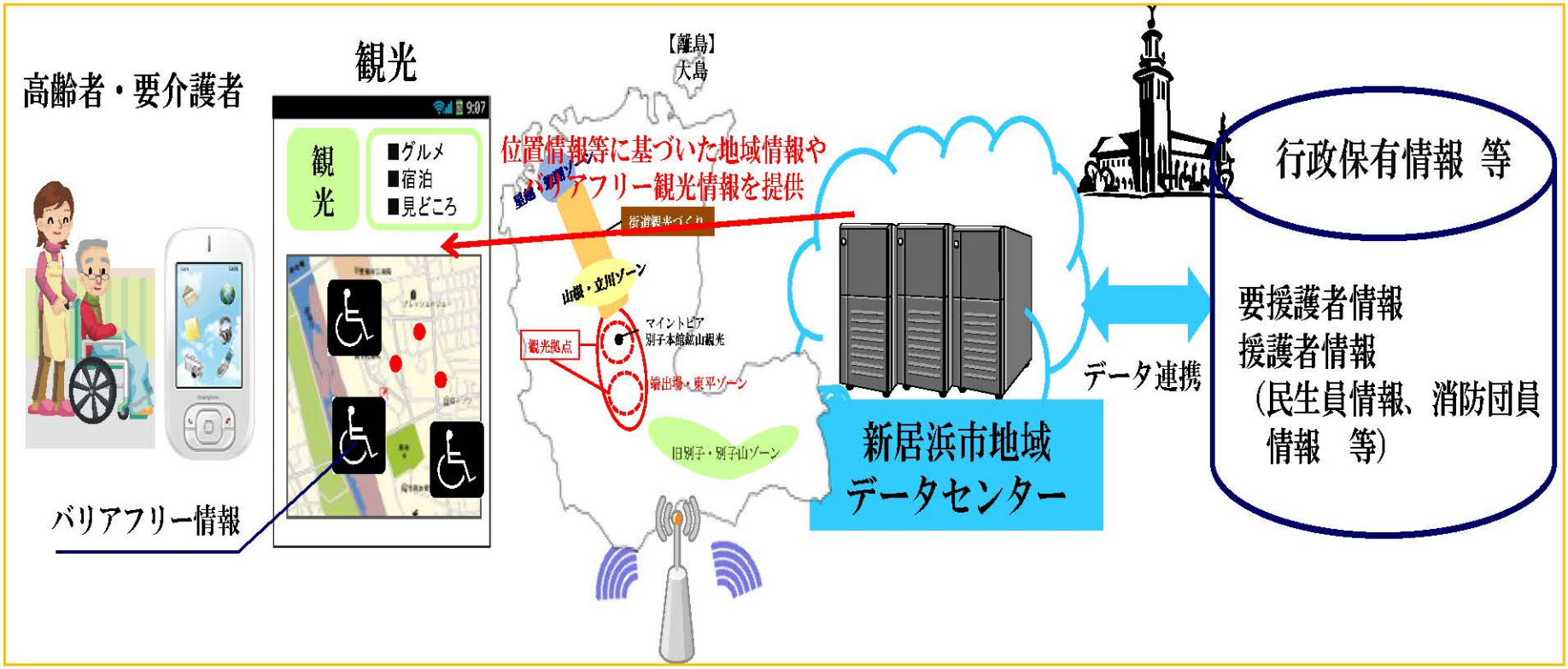
・大規模な災害発生の場合は、管理者から安否を促すシステムではなく、Jアラートと自動連携するなど人を介さず安否を促す通知を送ることが出来れば更に迅速に安否確認が行える。

・個人の携帯電話では迷惑メール設定など受信に制限がかかっているため、緊急通知が確認できない場合がある。

（社会福祉協議会）

7. バリアフリー観光・移動システム

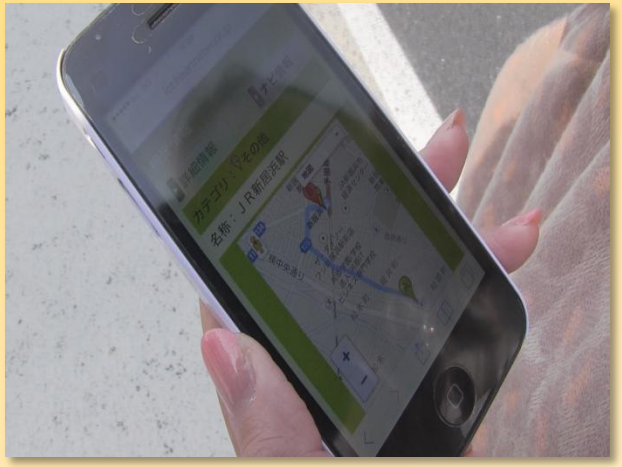
障がい者や高齢者、市外の観光客を対象に、スマートフォンの持ち歩きを想定したバリアフリー観光・移動Webアプリを開発し、位置情報など利用者情報と地域情報、バリアフリー観光情報等のデータを連携させることにより、全ての人に優しいサービスを提供できるシステムです。



①観光情報配信システム

市外の観光客を中心に対象とした観光・移動Webアプリです。市外から訪れる観光客が、観光・移動情報を容易に入手することができる。

GPS機能を使用すれば、現在地から順に近い観光地が表示される。また、地図上に経路表示がされることにより、迷うことなく目的地に到着できる。



マップ表示

一覧表示

詳細表示

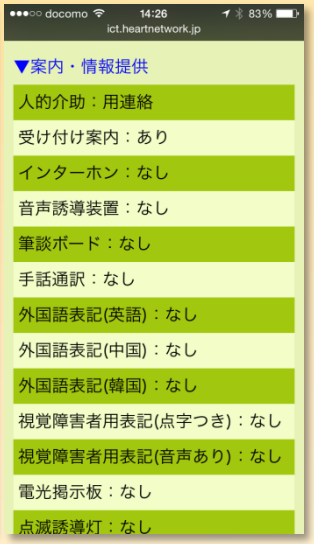
経路表示

②バリアフリー観光情報

市内外100箇所以上の観光地、観光施設、公共施設のバリアフリー調査を実施しシステムに反映。
＜地元高校生とのバリアフリー調査＞

最大30項目を調査し記録　サーバへ蓄積

調査した項目はスマートフォン等で確認できる。



効果
安心・安全の確保

課題
情報の継続した更新

バリアフリー観光移動システム　成果

施設のバリアフリー調査
市内観光地、施設等のバリアフリー調査を実施しシステムへ登録。
調査メニューは１９項目。

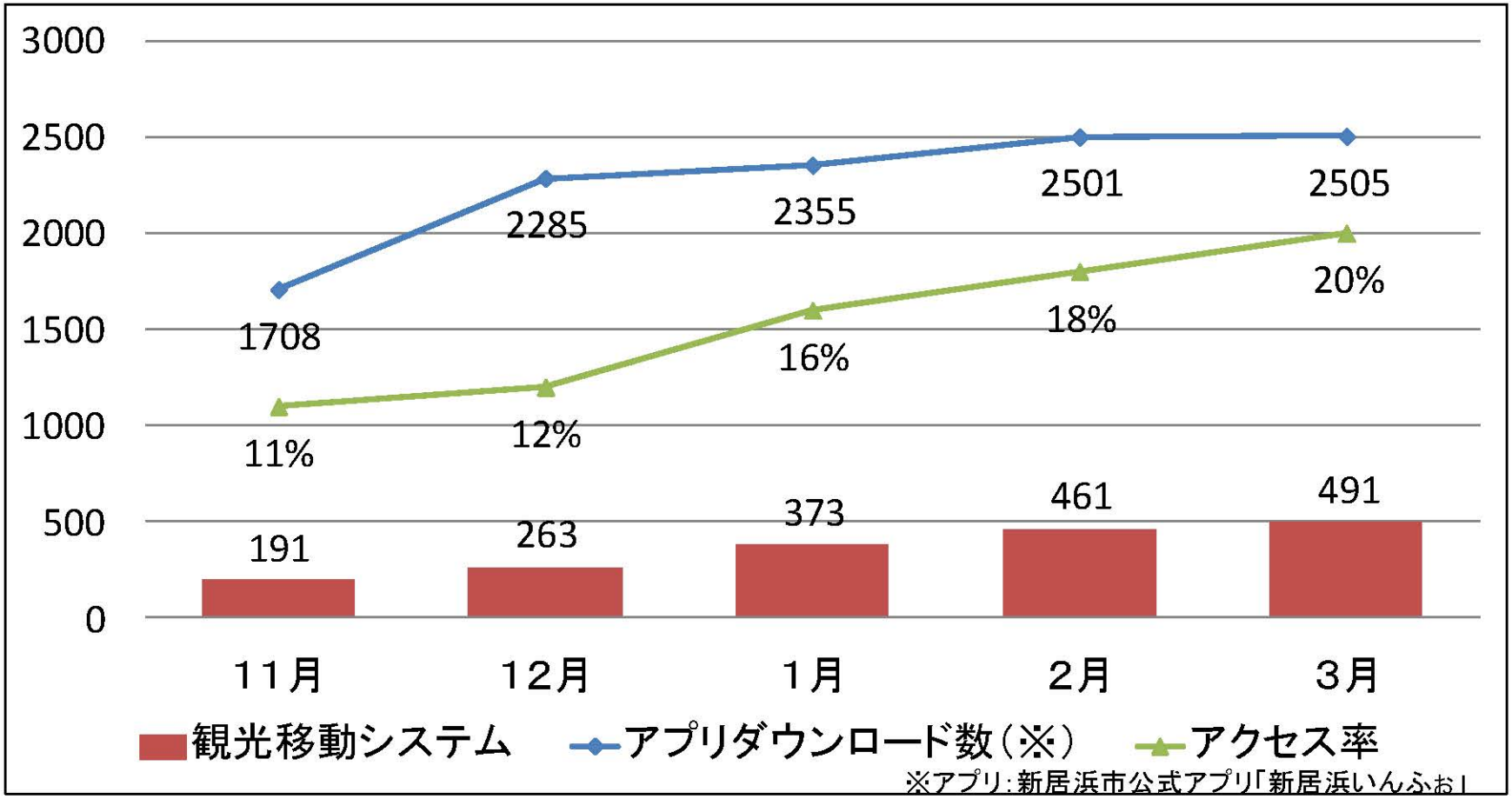
調査場所	観光地	観光施設	キャンプ場	公園	イベント施設	交通機関	レストラン	公共施設	避難所
調査・登録数	16	13	1	8	3	5	2	6	23

・障がい者は事前に目的地の状況を調べて行くため、情報の公開は必要である。
・現地で手軽にモバイル端末で確認できれば障がい者にとって利便性を感じる。
（四国バリアフリーツアーセンターより）

・施設のバリアフリー情報の提供は、高齢者、障がい者、また介護者に安心・安全を与える。
・バリアフリー情報の提供により、観光客の増加にもつながると考えられる。

バリアフリー観光移動システム　成果

システムアクセス数の推移

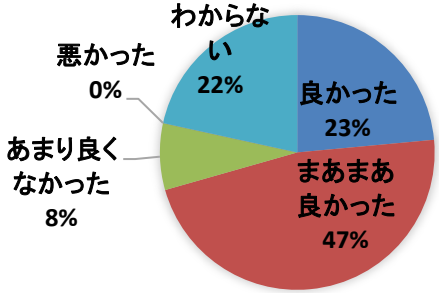


・本システムのアクセス数は他のアプリに比べ最も高く、利用者の関心の高さが伺える。
・公式アプリダウンロード数に対するアクセス率も徐々に上昇しており、コンテンツ次第で効果が見込まれる。

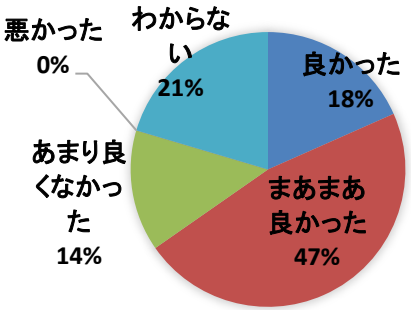
バリアフリー観光移動システム　成果

ID登録利用者の評価　回答者数51名

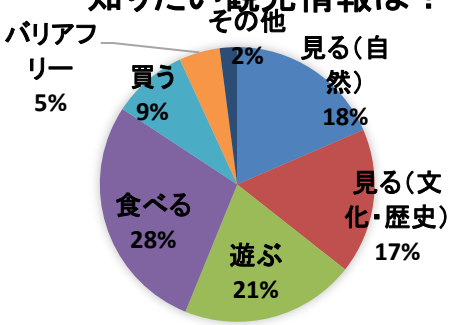
画面表示について



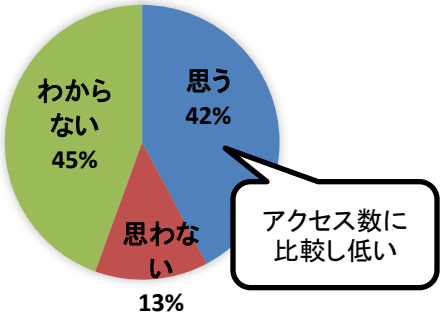
操作性は？



知りたい観光情報は？



継続して利用したいか？

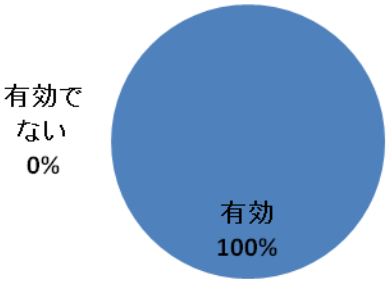


その他

- いい感じだと思う。便利で安心感があってとてもいいと思う。
- 色合いがよく、画面もすっきりしていて見やすい。
- 情報量を増やすことと、市民に向けたアピールを行い、多くの人が利用することで、さらなる発展につながると思う。

施設管理者、観光関係者の評価　対象5者に対してのヒアリング結果

システムは有効か？



その他

- 取り組みに期待ができる。
- イベント等の旬の情報を提供したい。
- 位置情報との連携は有効である。

バリアフリー観光移動システム　成果

市外観光者、新居浜在住外国人のヒアリング結果

市外観光者　　調査地：マイントピア別子

・県単位の広域で統一した使い勝手であれば、便利だと思った。
・駐車場、泊まる、口コミ情報、クーポン（割引）等の特典、お店からのオススメ情報
　なども観光情報としてあればいい。
・ルートの計測ができなかった。
・観光システムについて、表示順序に工夫が必要だと思った。
・観光ルートの提案がほしい。

外国人　協力：新居浜ガイドクラブ

・画面は見づらかった、特に地図が見づらい
・もっと使いやすくなればたくさんの人が利用すると思う。
・画面の文字はある程度大きい方がいいと思う。
・英文があると、どの外国の方にも対応できて便利だと思う。
・これから外国人向け観光にも力を入れていかないといけないと思うので、情報を充実
　させて役立つものにしていってほしい。

・市民と比較して指摘するポイントは大きく違う。土地勘が無い場所でのルート、観光に付随する
　情報は、表示にも配慮しながら提供する必要がある。
・外国人対応は、英文対応はもちろんのこと、表示画面にも配慮が必要との結果が得られた。

新居浜市の観光課題

近年の観光客数の伸びは停滞傾向

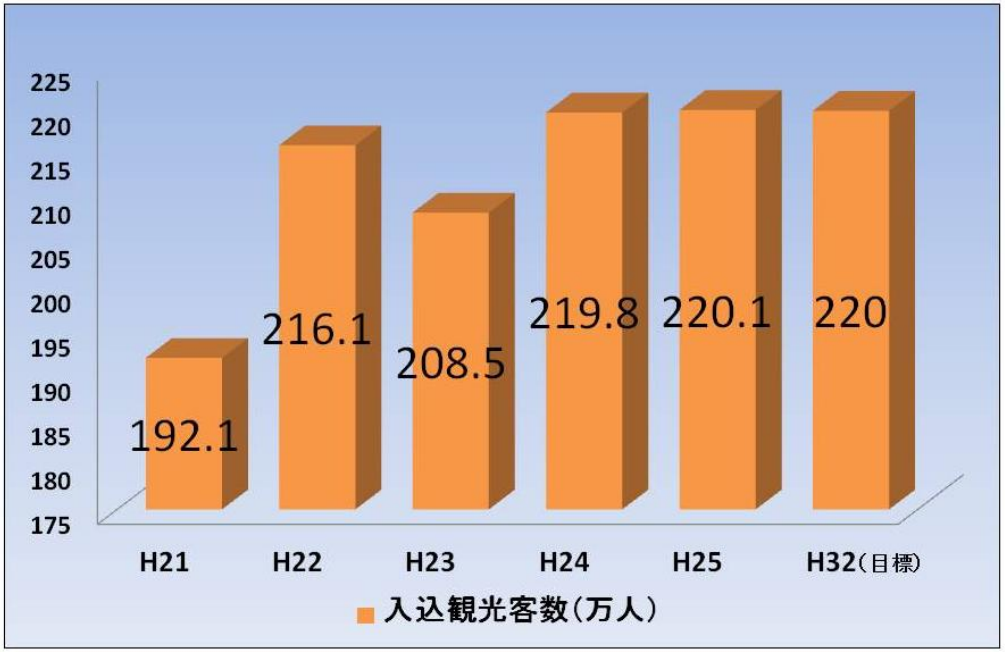
↓

施設のオープン、イベントの開催

↓

ICTシステムの活用に期待

新居浜市の観光客数の推移



新居浜市総合文化施設(2015年春オープン)

愛媛国体の開催(2017年)

(愛媛県HPより)

バリアフリー観光移動システム　課題

◆広域観光情報の提供

広域観光を想定したコンテンツは、市外観光者の要望として最も多い。近隣自治体の理解と協力による連携が必要である。

◆観光ルートの開発

市内滞在時間のアップやリピート率の向上には、複数の観光ルートを開発し、提案する必要がある。

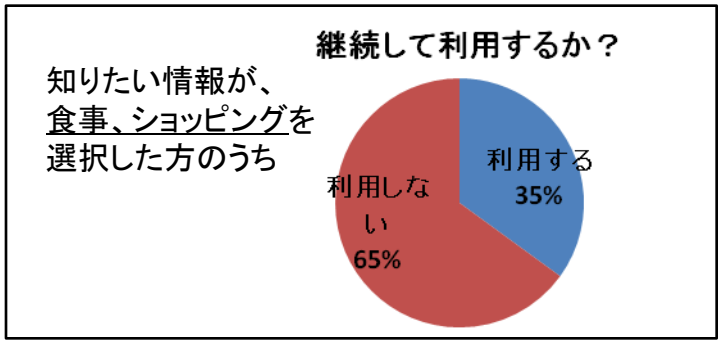
◆外国人向け対応

外国語対応、外国人に優しい画面表示等改良が必要である。

◆コンテンツの充実及び登録基準の策定

・観光情報に対する付加価値（クーポン、ポイント等）及び観光にリンクする情報（宿泊、食事等）の充実が不可欠であるが、公的アプリのため、掲載・登録する基準の策定が必要である。

・市民に興味がある情報は、当然ながら観光情報ではなく、リンクする情報（食事、ショッピング）である。継続利用率が低調な理由は、このコンテンツ不足が原因と推測される。



8. 魅力ある街づくりの実現に向けて

新居浜市が目指す都市像

「ーあかがねのまち、笑顔輝くー産業・環境共生都市」

本システムの実用化・普及を目指し今後以下の取り組みを実施

・本事業の結果・課題をさらに分析・検証

・分析・検証及び市民の評価に基づき、システム及び体制の改良

・市民、団体、事業者、行政が一体となりシステムを継続して活用

ICTを活用した魅力ある街づくりの実現

今後の展開

平成２６年度の取り組み方針

◆健康管理システム
「僻地における健康管理システム及び体制の確立」
（平成27年度予算化に向けて）

◆避難救護システム
「自主防災組織との連携体制確立」

◆観光移動システム
「観光コンテンツの強化」

◆共通ＩＤシステム
「外部ＩＤシステムとの連携を可能とするプラットフォーム検証」

◆本システムのオープン化
「新居浜市以外の地域での連携利用」

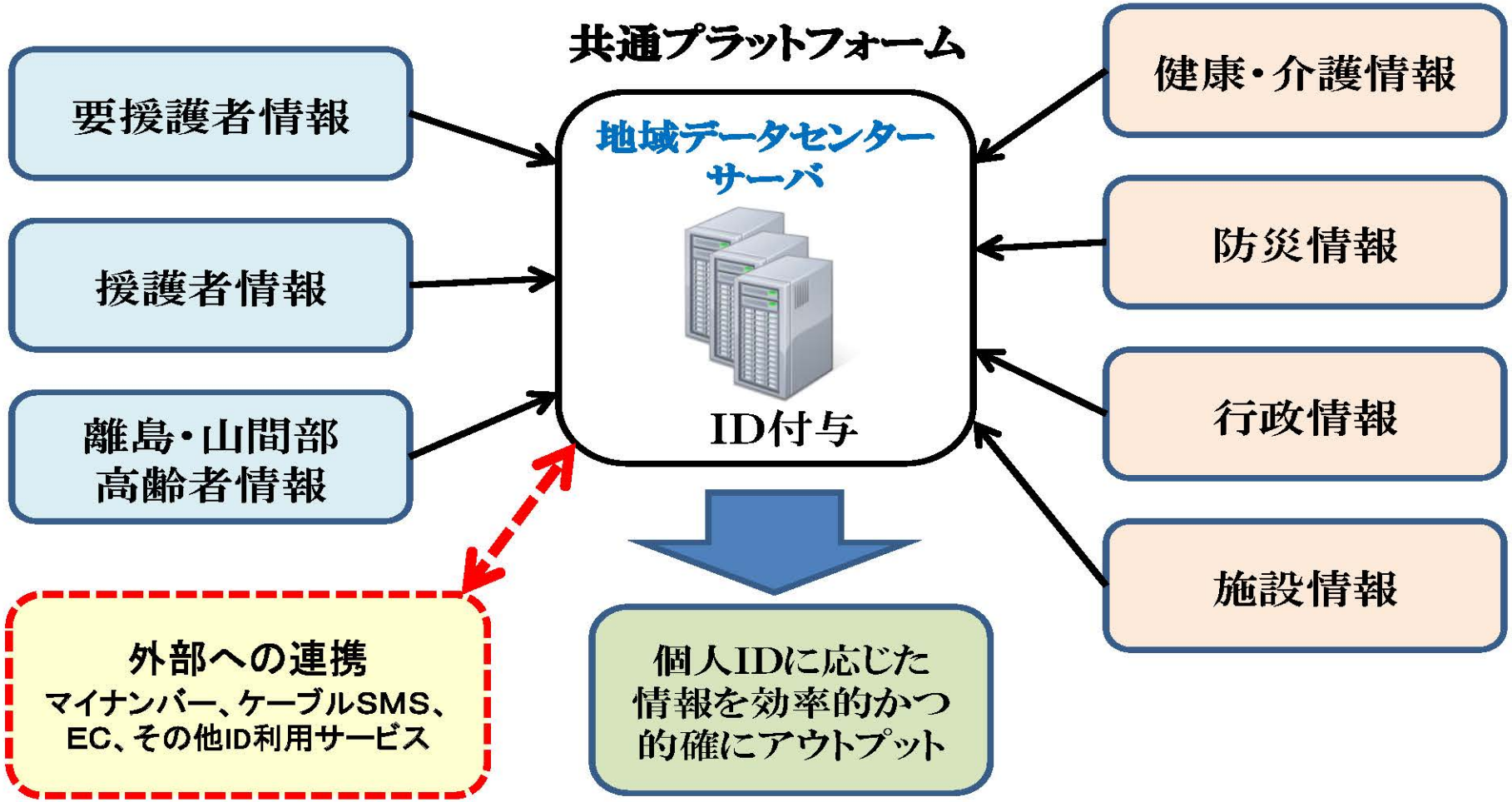
平成26年度事業内容

本事業での成果・課題を分析した上で、各システムの実用化・普及を目指し以下の取り組みを実施する。

	健康管理システム
目的・概要	別子山地区において引き続き僻地における高齢者健康管理体制の構築を目指す。
実施団体	新居浜市社会福祉協議会　協力：新居浜市、社会福祉法人
検証内容	高齢者の健康データの推移を蓄積し、ICT連携の有効性を検証する。

	避難救護システム
目的・概要	自主防災組織、ボランティア団体との連携を図り、避難救護体制を確立する。
実施団体	株式会社ハートネットワーク　協力：新居浜市、災害ボランティア団体等
検証内容	・自主防災組織訓練においてICT利用により、避難・救護の体制を検証する。 ・災害時における、情報の発信方法（役割、ツール等）を検証する。

	観光移動システム
目的・概要	観光コンテンツを強化し、全ての人に魅力ある新居浜観光を提供する。
実施団体	株式会社ハートネットワーク　協力：新居浜市、新居浜市観光協会
検証内容	・市内・広域観光ルートを開発し、市外モニターに利用してもらい検証する。 ・「食事」、「宿泊」、「外国語版」等メニューを追加し利用頻度を検証する。 ・付加価値コンテンツ（クーポン、ポイント等）の追加により利用頻度を検証する。

平成26年度事業内容

共通IDシステムの外部連携
・ハートネットワークが保有する顧客情報データベース（SMS）との連携を検証する。
・ハートネットワーク他企業が提供するIDを要するサービスとのID連携を検証する